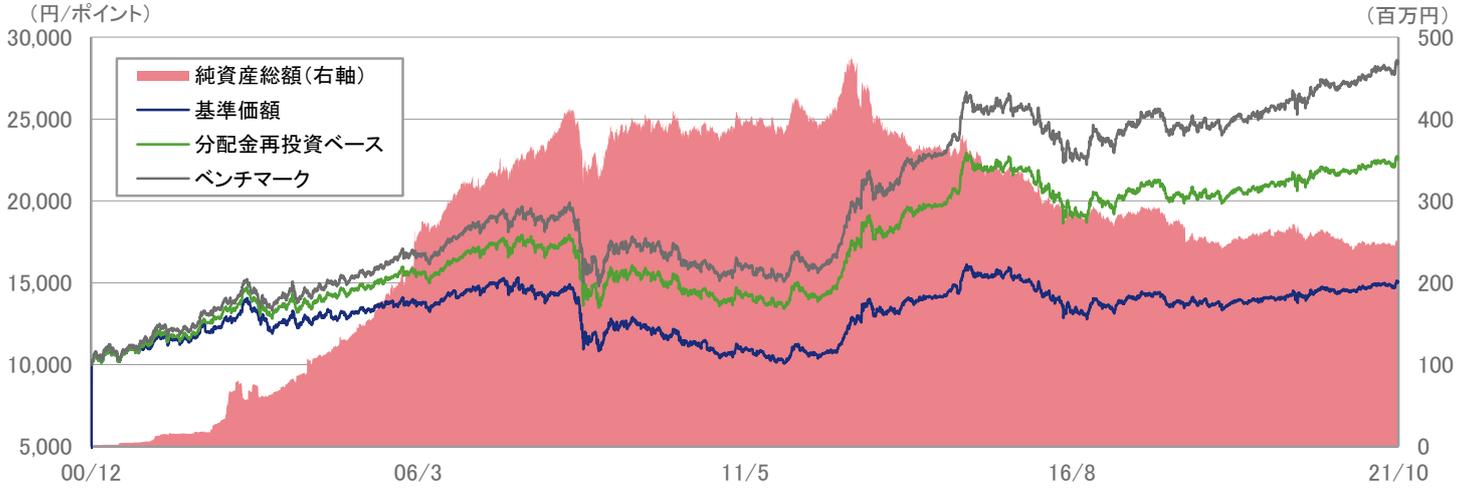


■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。  
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。  
※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。  
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		ベンチマーク (FTSE世界国債インデックス(除く 日本、当社円換算ベース))		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	22,659	-	130,788	-	-
過去1ヵ月	22,218	1.99	128,115	2.09	-0.10
過去3ヵ月	22,407	1.13	128,989	1.39	-0.27
過去6ヵ月	22,107	2.50	126,569	3.33	-0.83
過去1年	21,557	5.11	122,728	6.57	-1.45
過去3年	20,317	11.53	112,853	15.89	-4.36
設定日来	10,000	126.59	45,871	185.12	-58.53

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。  
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。  
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	15,089	14,795	+294
純資産総額 (百万円)	252	246	+5

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	16,117	2014年12月8日
設定来安値	10,000	2000年12月22日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。  
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用資産構成比率

ファンド	比率(%)
外国債券	88.1
短期資産等	11.9
合計	100.0

※1 比率はベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)です。  
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2021/10/18	0
2020/10/16	40
2019/10/16	100
2018/10/16	110
2017/10/16	130
2016/10/17	110
設定来合計	5,259

※ 1万円当たりの実績です。

■ 運用概況

当月末の基準価額は、15,089円(前月比+294円)となりました。  
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は+1.99%となり、ベンチマークの月間騰落率は+2.09%となりました。

<運用担当者のコメント>

■ 10月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<参考/基準価額の要因分解>

	(単位:円)	(単位:%)
	基準価額	月次騰落率
2021年10月29日	15,089	-
2021年9月30日	14,795	-
増減	294	1.99
債券要因	-12	-0.08
キャピタル	-24	-0.16
うち現物	(-24)	(-0.16)
うち先物	(-)	(-)
インカム	11	0.08
為替要因	322	2.18
小計	310	2.09
その他要因	-16	-0.11
要因合計	294	1.99

※ 上記の要因分解は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。  
※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

市場動向

米国金利は、資源価格の上昇を受けたインフレ期待の上昇に加え、堅調な経済指標の結果や旺盛な起債を背景に上昇しました。独国金利は、英国長期金利の上昇や起債が多かったことに加え、欧州中央銀行(以下「ECB」という)理事会においてラガルド総裁が市場の利上げ織り込みの進展を十分に牽制しなかったことを背景に上昇しました。為替については、ドルは、米連邦準備制度理事会(以下「FRB」という)の早期利上げに対する織り込みが加速する中、米国長期金利が上昇したことや、米国株式市場や資源価格の堅調推移を背景に円に対してドル高となりました。ユーロは、欧州株式市場の堅調推移や、ECBによる金融政策正常化への期待が高まったことに加え、ECB理事会においてラガルド総裁が市場の利上げ織り込みの進展を十分に牽制しなかったことを背景に円に対してユーロ高となりました。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市場環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

## ファンドレビュー

10月のファンドのパフォーマンスは前月比+1.99%、ベンチマークのパフォーマンスは前月比+2.09%、ファンドのベンチマークに対する相対パフォーマンスは-0.10%となりました。

当ファンドが組入れているマザーファンド(ドルベース)の10月のパフォーマンスをベンチマークと基準を揃えて比較すると、ファンドのパフォーマンスは以下の要因から、ベンチマークを下回りました。

- (一)デュレーション戦略の寄与はマイナスとなりました。オーストラリア国債のデュレーションをオーバーウェイトとしたことは、主要国の国債利回りが上昇したことからマイナスに寄与しました。
- (十)通貨戦略の寄与はプラスとなりました。スイス・フランに対してオーストラリア・ドルをオーバーウェイトとしたことは、オーストラリア準備銀行(以下「RBA」という)がイールドカーブコントロールの対象である24年4月償還債の買入れを見送ったことを受けて早期の利上げ観測が強まり、金利上昇観測に追随する形でオーストラリア・ドルが上昇したことからプラスに寄与しました。
- (0)国別配分戦略の寄与は中立となりました。
- (一)イールドカーブ戦略の寄与はマイナスとなりました。英国の長短金利差の拡大を想定したポジションは、英国政府が今年度の国債発行予定額を予想以上に削減し、英国30年債利回りが低下したため、マイナスに寄与しました。
- (0)信用戦略の寄与は中立となりました。

## ■ 今後の市場見通しと運用方針

■市場は、金融政策当局が合理的な市場予測を行うとともに景気サイクルを推進する役割を担っていると見なしてきましたが、こうした認識は徐々に薄れつつあります。タカ派な政策を予想する市場に対し、主要先進国の中銀はハト派な政策を打ち出すのに苦労すると思われる。貿易戦争とそれに続く新型肺炎の感染拡大は、脱グローバル化やサプライチェーンのローカル化を加速させ、企業に従来以上の在庫水準の確保を強いることで柔軟な生産活動が困難となっており、インフレリスクを根本的に変化させています。米インフラ法案の可決は、過去数か月間継続してきたイールドカーブのフラットニングの流れを一時的に変える要因になり得ると考えますが、金融政策の引き締めが供給制約によってもたらされた物価上昇の抑制に寄与するのか、もしくは物価上昇が需要減退を引き起こし景気鈍化に繋がるのか、各国中銀は難しい舵取りを迫られており、各国の金融政策の方向性には乖離が見られる可能性が高いと考えています。また、中国経済の減速は10-12月期も継続すると予想しています。こうした状況の中、米国国債、英国国債、欧州国債のデュレーションをアンダーウェイト、オーストラリア国債のデュレーションを適度にオーバーウェイトとすることを検討します。通貨別では、商品市況に感応度の高い先進国通貨を愛好します。

■債券：  
【北米】新型肺炎の感染者数が引き続き減少しており、消費の中心が財からサービスにシフトする中、経済は再び加速を始めています。緩和的な水準にある銀行融資基準は、消費者および企業への融資が過去の基調を上回って伸長していることを示唆しています。賃金所得の伸び以上に住宅や自動車価格が高騰している中、消費者がこれらの購入を継続するには持続的に融資が伸長することが必要になると見えています。消費者物価指数(以下「CPI」という)の上昇率は2022年上半期にピークに達した後に減速に転じると考えていますが、2022年平均が2%を大きく上回る可能性もあり、現在FRBが想定しているよりも早いペースでテーパリング(量的緩和の縮小)が実施されるリスクがあります。高止まりしている財のインフレ率は徐々に鎮静化すると想定する一方で、国内の需給ギャップや労働市場の状況に影響を受けやすいコアサービスのインフレ率は今後さらに加速すると考えていますが、これらを背景にインフレ率が高止まりする場合、FRBはインフレ率の上昇は一時的であるとの見方を見直さざるを得ないと考えています。以上の見通しは、FRBや市場の予想よりも単位労働コストが上昇しインフレ高進も長続きするとの見方に基づくものですが、これらを見方を左右する企業設備投資の状況や今後の財政政策の詳細については注視を要すると考えます。供給制約が緩和に向かうとの確度が相当程度高まるまでは、長短金利差は中期的に縮小すると考えています。こうした中、米国国債のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

【ユーロ圏】ユーロ圏の7-9月期の国内総生産(GDP)は、ECBの予測をわずかに下回ったものの、新型肺炎感染拡大前の水準を概ね回復しています。10月のCPIが過去最高を記録し、コアCPIが2002年以来初めて2%を上回る中、インフレ率はECBの想定以上に上昇し高止まりする可能性があると見えています。一方でECBは、市場が織り込んでいた2022年内の利上げは適切でないと考えており、ラガルド総裁はパンデミック緊急購入プログラム(以下「PEPP」という)終了時の「崖」を回避するため、貸出条件付き長期資金供給オペ(TLTRO)をPEPP終了後も延長することを示唆しました。ECBは、インフレ率の上昇はエネルギー価格の急騰や新型肺炎、供給制約が原因であり、一時的なものであるという見方を維持しているため、インフレ高進が持続的なものと認めることはECBにとって非常に高いハードルとなっています。ECBが現在の姿勢を変更するには、供給制約の長期化を受けて賃金が予想以上に上昇するか、予想を上回るスピードで経済活動が正常化するか、消費者信頼感の改善を受けて貯蓄率が減少するかといった状況が顕在化する必要があると考えます。こうした中、欧州国債のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

【英国】英国経済の回復基調は、欧州よりも米国の軌道に近づきつつあります。イングランド銀行(以下「BOE」という)の動向は今後数か月の労働市場の状況に左右されると考えられ、仮に消費者信頼感の悪化や失業率の上昇が見られる場合には、利上げを実施しない可能性が高いと考えられます。BOEは高インフレが消費者の負担になっているのか、もしくは賃金上昇によってカバーされているのか、影響を判断しかねています。過去2か月間の消費者信頼感の急激な低下は高インフレが消費者の負担になっている可能性が高いことを示唆しており、BOEが利上げを見送った主因と見えています。一時帰休制度終了後の労働市場が順調に回復するならばBOEは今後数か月の間に利上げを実施すると思われるものの、消費者信頼感の低迷が継続する場合にはBOEは利上げを実施しないと想定します。こうした中、英国国債のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

■通貨：  
【米ドル】FRBがややタカ派な政策へ移行するにつれて、米ドル安の要因は弱まっています。インフレ率上昇がFRBの想定する一時的な上昇に留まらない場合、より引き締めの金融政策が必要になるとの思惑から、中期的に米ドル高となることを見込まれます。こうした中、米ドルについては若干ポジティブな見方を維持しています。

【ユーロ】供給制約がさらに深刻になれば、短期的な景気下振れリスクおよびインフレ高進リスクが高まると考えているため、ユーロについてネガティブな見方を維持しています。

【英ポンド】エネルギー不足や地政学リスクが経済に及ぼす悪影響を考慮し、英ポンドには慎重な見方を持っています。こうした中、英ポンドをアンダーウェイトとする方針です。

※運用担当者のコメントは10月末時点のものです。また、将来の市場環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市場環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

## ＜マザーファンドの運用状況＞

### ■ 国別組入比率とデュレーション

国名	① 組入比率 (%)		② 修正デュレーション(年)	
	ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク
米国	40.3	46.7	7.88	6.96
カナダ	5.4	2.0	5.17	7.25
イギリス	4.7	6.2	14.60	13.86
ユーロ	33.5	39.4	9.24	8.68
ドイツ	1.9	7.3	19.01	8.55
フランス	8.7	10.0	8.98	9.22
アイルランド	1.2	0.8	8.53	9.13
イタリア	10.3	9.1	6.75	7.54
オーストリア	1.2	1.5	17.89	11.06
オランダ	1.9	1.9	8.71	9.39
スペイン	5.6	5.9	8.76	8.16
フィンランド	0.5	0.6	9.52	8.56
ベルギー	2.2	2.3	10.63	10.37
ポルトガル	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
スウェーデン	0.2	0.3	9.44	6.42
ポーランド	0.5	0.5	4.37	4.24
デンマーク	0.3	0.5	13.32	9.08
ノルウェー	0.2	0.3	6.48	4.60
オーストラリア	2.0	1.8	9.52	7.34
シンガポール	0.6	0.4	5.20	7.94
マレーシア	-	0.5	-	7.05
メキシコ	0.5	0.7	6.59	5.22
イスラエル	0.4	0.5	7.78	6.61
中国	-	0.2	-	5.51
ニュージーランド	-	-	-	-
債券合計	88.6	100.0	8.56	8.05
その他	11.4	-	-	-
合計	100.0	100.0	-	-

※ 比率は純資産総額対比です。

### ■ 通貨別組入比率

(%)

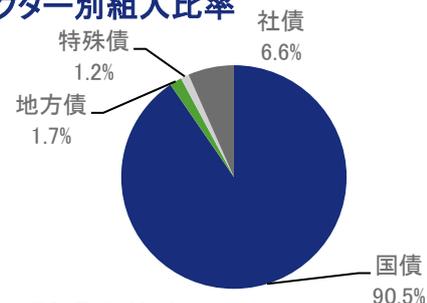
通貨	ファンド	ベンチマーク	差
米ドル	46.1	46.7	-0.6
ユーロ	39.9	39.4	0.4
英ポンド	6.2	6.2	0.0
カナダドル	2.0	2.0	0.0
その他(円除く)	5.4	5.7	-0.3
合計	99.5	100.0	-0.5

※ 比率は純資産総額対比です。

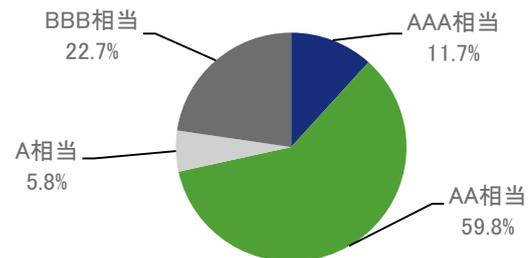
### ■ 保有債券の属性

	ファンド	ベンチマーク	差
平均利回り(%)	0.87	0.83	0.04
平均クーポン(%)	1.13	1.82	-0.70
平均残存期間(年)	9.59	9.07	0.52
修正デュレーション(年)	8.56	8.05	0.52

### ■ セクター別組入比率



### ■ 格付別組入比率



※1 比率は外国債券現物対比です。

※2 格付けは、原則としてS&amp;P社、Moody's社のうち低位のものを採用しています。

### ■ 組入上位10銘柄

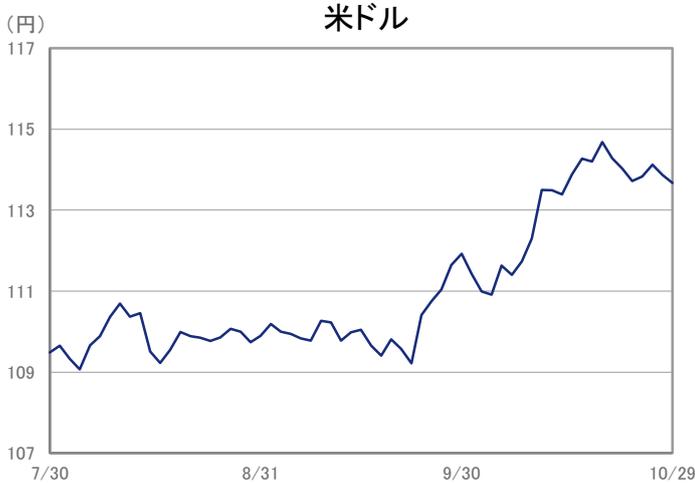
順位	銘柄名	国名	通貨	クーポン(%)	償還日	組入比率(%)	分類
1	T-NOTE 0.25 250930	アメリカ	米ドル	0.250	2025/9/30	8.5	国債
2	T-NOTE 0.75 260831	アメリカ	米ドル	0.750	2026/8/31	4.6	国債
3	BTPS 0 260401	イタリア	ユーロ	0.000	2026/4/1	3.3	国債
4	OAT 0 260225	フランス	ユーロ	0.000	2026/2/25	2.5	国債
5	T-NOTE 0.75 260430	アメリカ	米ドル	0.750	2026/4/30	2.4	国債
6	T-BOND 3.0 480215	アメリカ	米ドル	3.000	2048/2/15	2.2	国債
7	OAT 0 311125	フランス	ユーロ	0.000	2031/11/25	2.0	国債
8	T-BOND 4.5 360215	アメリカ	米ドル	4.500	2036/2/15	2.0	国債
9	T-NOTE 0.5 260228	アメリカ	米ドル	0.500	2026/2/28	2.0	国債
10	T-NOTE 1.25 310815	アメリカ	米ドル	1.250	2031/8/15	1.9	国債

※ 比率は外国債券現物対比です。

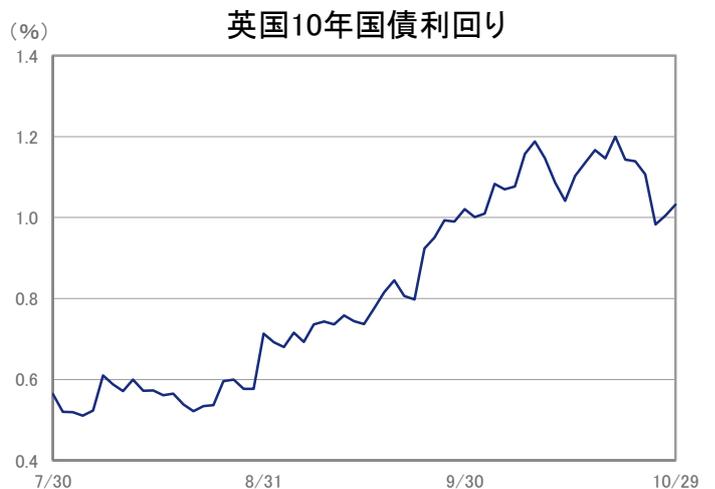
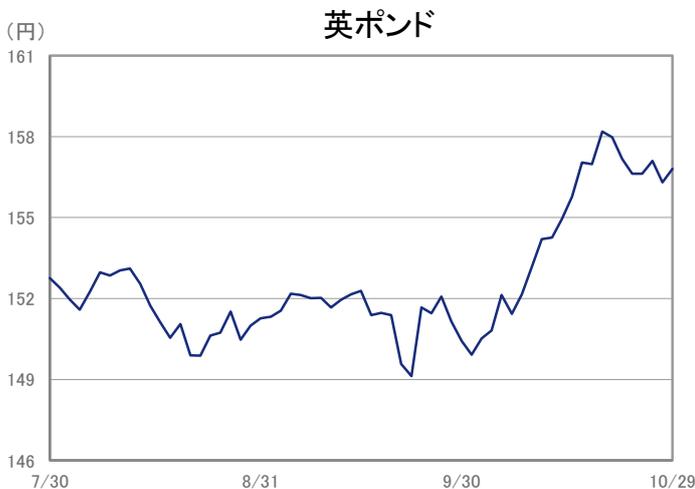
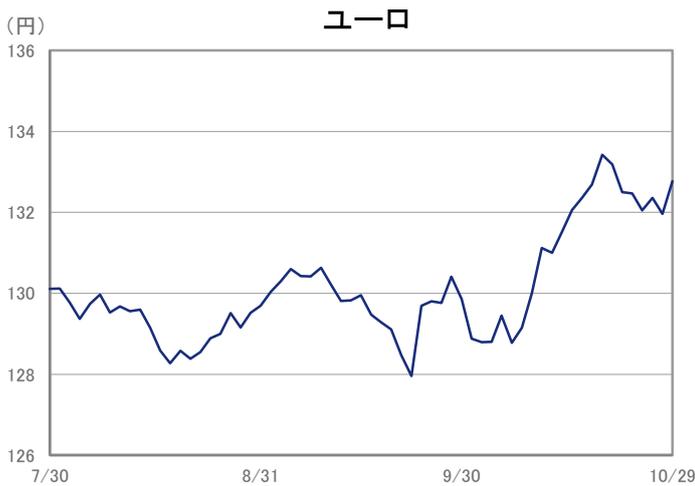
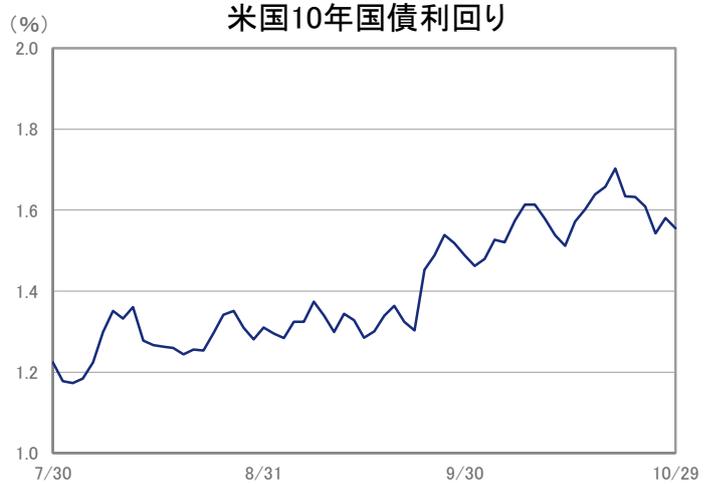
組入銘柄数: 158銘柄

**<参考> 市場動向(マーケット指標の推移)**

**為替相場**



**債券市場**



当ファンドは、公社債などの値動きを生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。従って元金が保証されるものではありません。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。当資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。投資信託は貯金(預金)保険制度の対象ではありません。当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

## 商品の特色

- 当ファンドは、JA海外債券マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の公社債を中心に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント・香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッドに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。
- 当社が円ベースに換算したFTSE世界国債インデックス(除く日本)をベンチマークとし、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ポートフォリオ全体の平均格付(保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したもの)は、原則としてA格以上を維持することとします。外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。

## お申込みメモ

購入単位	<通常の申込> 販売会社が定める単位 <確定拠出年金制度に基づく申込> 1円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までに支払ってください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた価額となります。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。(詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日:2000年12月22日)
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年10月16日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎年10月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回)
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年10月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入、換金のお申込みの受け付けを行いません。金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、購入、換金のお申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた購入、換金のお申込みを取り消す場合があります。

## 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)  
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。  
: ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント・香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッド(投資顧問会社)  
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)  
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。  
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社  
ホームページ : <https://www.ja-asset.co.jp/>  
フリーダイヤル : 0120-439-244(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

## 主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

### ■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主に日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、組入公社債の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

### ■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	<p>&lt;通常の申込&gt; 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。ご購入時の手数料率の上限は1.65%(税抜1.5%)です。</p> <p>&lt;確定拠出年金制度に基づく申込&gt; 無手数料</p>
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額を、換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に年1.32%(税抜1.20%)を乗じた額を計上します。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	<p>監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。</p> <p>有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。</p> <p>※運用状況により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

## 留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、公社債などの値動きの生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- FTSE世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックス、FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、FTSE Fixed Income LLCの承諾を得たうえで、当社が独自に円換算したものです。